

Economic Indicators

定例経済指標レポート

テーマ：景気動向指数（5月）の予測

発表日：2009年6月30日（火）

～C I一致指数は2ヶ月連続で上昇の見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

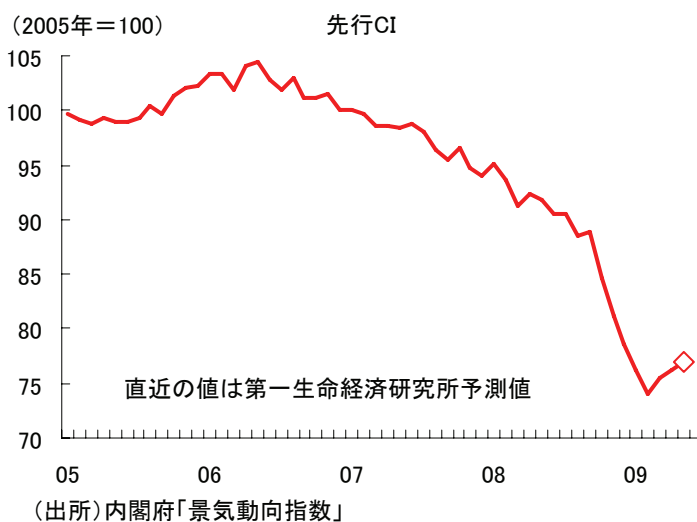
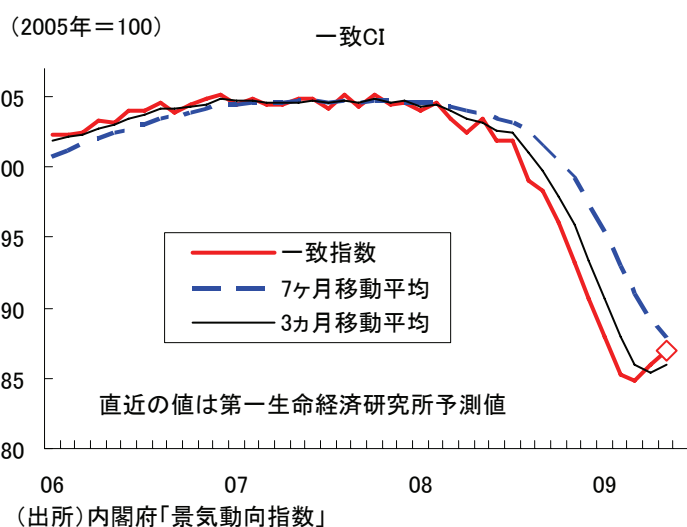
○ C I一致指数は2ヶ月連続で上昇の見込み

7月6日に公表される09年5月の景気動向指数では、C I一致指数が前月差+0.9ポイント、C I先行指数が前月差+0.7ポイントが予想される。一致C Iは2ヶ月連続、先行C Iは3ヶ月連続の上昇になる。在庫調整の進展や輸出の増加等を背景として景気が回復に向かっていることを示していると考えられる。当面、輸出・生産の回復が続く可能性が高いことを踏まえると、一致C Iは09年3月をボトムとして上昇局面に転じたとみて良いと考えられる。

5月分の一致C Iの構成系列をみると、投資財出荷や有効求人倍率、商業販売額など、雇用・消費関連や設備投資関連指標が冴えない一方で、鉱工業生産、生産財出荷、大口電力使用量、製造業所定外労働時間など、生産関連指標のプラス寄与が大きい。

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、今月は予想が難しい。内閣府が示している「3ヶ月後方移動平均の符号が変化し、1ヶ月、2ヶ月、または3ヶ月の累積で1標準偏差分以上逆方向に振れた場合」という上方修正のための基準を満たすには、5月分で前月差+1.0ポイントが必要になる。仮に当社の予測値である+0.9ポイントにとどまった場合にはギリギリ届かず現状維持となるが、少しでも上振れれば基準を満たすことになる¹。基調判断が現状維持になるか、上方修正になるかは微妙な状況である。

仮に基準を満たした場合には、4月分の「景気動向指数（C I一致指数）は、悪化を示している。ただし、C I一致指数の前月差が11ヶ月振りにプラスに転じるなど、下げ止まりの動きも見られる」から、「下げ止まり」に上方修正され、基調判断から「悪化」の文字が消えることになる。



¹ 上方修正の基準を満たさなかった場合には原則として現状維持となる決まりだが、内閣府では「ただし、特記すべき事項があれば付記する」としているため、この但し書き部分を適用して上方修正される可能性もある。ちなみに4月分では、本来の基準では現状維持のはずだったが、この「特記すべき事項」に該当するとして上方修正が行われた。